



優良住宅部品認定基準「安全合わせガラス」を新規に制定しました

2020年8月27日

一般財団法人ベターリビング

一般財団法人ベターリビングは、優良住宅部品認定基準（以下「BL 認定基準」という。）「安全合わせガラス」を新規に制定し、2020年8月27日付で公表・施行しました。

当財団では、近年、毎年のように数十年に一度と言われる大型台風が発生し、風災や洪水による甚大な被害が起きていることから、大型台風等の災害に対応した防災性能向上に資する住宅部品の認定の拡大に取り組んでいます。

この度、新規に制定した「安全合わせガラス」のBL 認定基準は、飛来物衝突の安全性、防犯性及び人体衝突の安全性を求めています。特に飛来物衝突の安全性については、大型台風等の強風で飛来物が衝突した際に飛来物がガラスを貫通しないことを求めています。

また、「屋根瓦の破片相当」以上の飛来物の衝突に対する安全性を有するものを「防災安全合わせガラス」（BL-bs 部品※1）としています。

今回の制定に合わせ、タブレット・スマートフォン等で閲覧可能なマルチデバイス対応の電子ブック『優良住宅部品（BL 部品）ガイドブック』も更新しましたので、是非ご活用ください。（<http://cbl.or.jp/blsys/guide/guidebook/index.html>）



※1：付加認定基準（BL-bs：Better Living for better society）とは、BL部品うち、より良い社会の実現に寄与するものとして特徴を備えた優良住宅部品をBL-bsとして認定。

1 BL 認定基準「安全合わせガラス」の新規制定

1) 新規制定の背景

近年、数十年に一度と言われる大型台風が毎年のように発生し、暴風によって屋根が吹き上げられる被害だけでなく、風で飛ばされた屋根材等の飛来物が窓などの開口部に衝突して貫通する被害が問題視されています。一般に、窓ガラスは風だけで割れる心配は少なく、窓ガラスが割れる原因は、風で飛ばされた飛来物の衝突によることが多いと言われています。

そこで、「安全合わせガラス」の新規基準を制定し、開口部の防災対策に寄与することを目的としました。



図 各種ガラスの割れ方

写真提供：AGC株式会社

＜問い合わせ＞住所：〒102-0071 千代田区富士見 2-7-2
担当：住宅部品事業推進部 企画開発課
電話：03-5211-0572



2) 認定基準制定のポイント

本認定基準の主な制定のポイントは、下記のとおりです。

- ① 安全合わせガラスとは、飛来物衝突の安全性、防犯性及び人体衝突の安全性を有する合わせガラスをいいます。
- ② 合わせガラスは、2 枚以上の材料板ガラスに中間膜を挟み全面接着したもので、外力の作用によって破損しても、破片の大部分が飛び散らないようにしたものです。合わせ複層ガラスでは、さらにスペーサー、吸湿材、封着材、乾燥気体を必須構成部品としています。
- ③ 施工の範囲は、全周支持のはめ込み構法となる開口部のサッシ等の枠や障子への取付けまでとしています。(※2)
- ④ 飛来物衝突の安全性は、台風による飛来物衝突によって貫通又は孔（開口）が生じないこと、及びその後に強風が継続した際に被害が進展しないことを要求しています。(※3)
- ⑤ 設計時には、飛来物衝突の安全性について確認された合わせガラスを、適切な風速、圧力差、開口部が設置される高さ及び防護レベルを考慮し、適材適所で選択することになります。(※3)
- ⑥ 人体衝突の安全性は、ショットバック衝撃特性の性能(※4)を有することを要求しています。
- ⑦ 防犯性は、防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議で定める防犯面で侵入を5分間以上防ぐ防犯性能を有することを要求しています。
- ⑧ 無償修理保証の対象及び期間を10年として定めています。
- ⑨ 「屋根瓦の破片相当」以上の飛来物の衝突に対する安全性を有するものを「防災安全合わせガラス」(BL-bs)としています。

※2：サッシは、JIS A 4706：2015「サッシ」を満たした製品を要求。

※3：JIS R 3019：2018「建築用ガラスの暴風時における飛来物衝突試験方法」による。

※4：JIS R 3205：2005「合わせガラス」による人体転倒時の衝突安全性をいう。

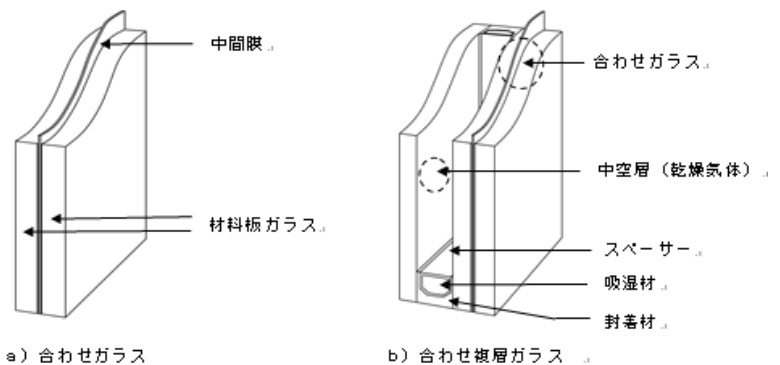


図 構成部品

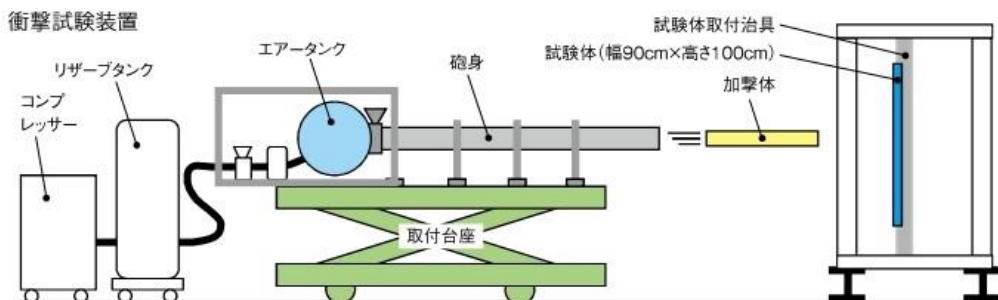


図 飛来物衝突の安全性を確認する試験装置



写真 飛来物衝突時

図・写真提供：板硝子協会

以 上